

第1学年4組 道徳学習指導案

指導者 久留米市立諏訪中学校 教諭 福田 緑

1 主題名 「男女の性によって決めつけた見方をしていないか見直してみよう」

4- (4) 正義を重んじ、だれに対しても公正、公平にし、差別や偏見のない社会の実現に努める。

資料名 「ロールプレイをして考えてみよう」(B c 社会的・役割的性差意識の解消)
久留米市男女共同参画教育副読本(中学校用)「ともに生きる」より

2 主題設定の理由

- 本学級の子どもたちは、入学してから体育祭やふれあい学級、合唱コンクールなどの行事を体験してきた。その中で上級生の取り組みに学びながら、学級集団としてのまとまりができてきた反面、自分の思いをうまく級友に伝えられないで悩んだり、人を決めつけるような言動で相手を傷つけたりとといった課題も明らかになってきた。他人と違うことを恐れ、人目を気にして自分を表現できない子どももいる。中学入学と同時に制服が決められ男女別の体育の授業があるなど、小学校と大きく変化したことで、性差を更に意識するようになってきている。男女平等ということを考える場面より、思春期特有の異性を意識する機会は増えてきているが、自立した人間として生き方を模索させる段階にはまだ入っていない。

2学期になって、授業で「男の子の本音ランキング」(「自分を生きる」から)を扱った。「男だったら重たい荷物を運ぶのは当たり前」、「男は涙を見せてはいけないとよく言われる」、「体育の時間、男の方が長い距離を走るのは当たり前」、「将来、自分だけは働いて妻子を養わなければいけない」などの項目で、約30%以上の生徒が「仕方ない」か「まあ仕方ない」と考えていることがわかった。またけんかをして暴力をふるった男子生徒に話を聞いた時、「弱虫の男だと思われたくない。」という言葉も出てきている。いつのまにか、歴史的・社会的につくられた固定的な男女観や性別役割分業の刷り込みを受けているようである。

- 「ロールプレイをして考えてみよう」は、夕食の準備をする場面で、親の子どもに対する態度や期待が男子と女子では違い、日常的によく耳にする会話が、男性と女性を入れ替えてみることにより、社会の中に固定的な男女観や性別役割分業があることに気づかせる教材である。

女子も男子も将来どんなこともできる可能性をもった存在として、平等に大切に見守られていくべきだということを伝えると同時に、人に対する一方的な見方や偏見が差別につながっていることを知り、男女が平等な扱いを受けているかということを敏感に感じ取れる感性を養っていきたいという願いが込められている。また男の役割、女の役割にとらわれず「自分らしく生きる」ことを伝えていくねらいをもっている。

- 本指導にあたって、日常行われている会話を振り返らせることによって、自分自身が思いこまされている「女は(男は)こうあるべきだ」という姿は、つくられてきたものであることに気づかせたい。また、固定的な性別役割分業意識の解消を図ることによって、男女双方が「自分らしく生きていける」男女共同参画社会実現への展望を子どもたちにもたせたいと考えている。

3 計画(2時間)

- ・副読本をもとにロールプレイをして、固定的な男女観や性別役割分業に目を向けさせるとともに、日常生活の中の似たような例をあげ、それも男女の立場を入れ替えてロールプレイをさせ、おかしさに気づかせる。(本時)
- ・固定的な男女の見方にとらわれず自分らしく生きているモデルを紹介し自分の生き方を考えさせる。

4 本時

平成19年11月19日(月) 5校時(14:10~15:00) 1年4組の教室で

5 ねらい

- 日常の身近な会話の中にある固定化された男性観・女性観について考え、生活の中に浸透している性別役割分業のおかしさに気づくことができる。
- ロールプレイとその交流を通して、各自の気づきをもとに自分らしさを追求する姿勢を育てる。

6 準備 ワークシート(資料1) 例題ワークシート(資料2) 寸劇用小道具

7 展開

	学 習 活 動・内 容	指 導 上 の 留 意 点
つ か む	1 資料1「ロールプレイをして考えてみよう」のAの親子の会話を聞いて(読んで)気づいたことを出し合い、めあてをつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> ロールプレイを通して、きめつけた男女の見方について考えよう。 </div>	○資料を読んで、親子の会話でおかしかったところを考えさせ、めあてをつかませる。 よく耳にするのはどちらか。それはなぜかを考えさせる。 ○事前にした授業「男の子本音ランキング」のなかで、生徒たちが考えていた本音の部分を紹介し、自分の見方がどうであったのかを思い出させる。
ひろ げ る	2 資料2の例題を読み、気づいた点を出し合い、4つに共通することを話し合う。 3 班ごとに、資料2の例題を男女の逆バージョンで朗読する。 (できれば数班に実際に演じてもらう) その後、固定的な男女観や性別役割分業のおかしさをとらえる。	○いくつかの例題を書いたプリントを配布して、男女の見方はどうであるのか気づかせる。 ○役割演技をするときには、その人になりきって演ずるよう小道具などを準備して支援する。 ○男女の見方という視点から気づいたことを出させながら板書し、身近な問題をとらえさせる。
ふ り か え る	4 担任の体験から、どんな風に自分の生き方を変えていったかを聞く。(悔しい気持ちとの闘い) ・やりたい仕事やあこがれの仕事 ・自分の中の揺れ動き(進路に向けて) ・少しずつ夢がしぼんでいく。 ・男女に分ける必要のないものがある(社会的につくられてきた歴史がある) 5 今日の学習を振り返りながら感想を書く。 6 夢をあきらめずに、自分の希望をかなえて生き生きと働いている人たちの紹介。(次時の予告)	○「女だから、男だから」という固定的な見方や考え方に縛られることによって「自分らしく生きる」ことがせめられることもあることを伝え、自分の生き方を見つめさせる時間をつくる。 ○振り返りを含めた感想を書かせる。